

記念式典、ジョイントコンサート

中高生 迫力の合同演奏

茅野市と米国コロラド州ロングモント市との姉妹都市提携35周年を記念した式典と両市の中高生によるジョイントコンサートが20日、茅野市塚原の茅野市民館マルチホールで開かれた。コンサートには茅野市内4中学校と東海大諏訪高校、ロングモント市高校生選抜吹奏楽団から計約130人が出演。各団体がこの日のために練習を重ねた楽曲を披露した後、全体で合同演奏を展開。大迫力の演奏で会場を盛り上げた。

(平岡大輝)



ジョイントコンサートの全体合同演奏。茅野市内4中学校と東海大諏訪高校、ロングモント市高校生選抜吹奏楽団から計約130人が出演し、大迫力の演奏で会場を盛り上げた

1990年に姉妹都市提携の調印式を行って以来、ホームステイやゴルフコンペ、御柱ツアーなど行政・民間の双方で交流事業を展開してきた両市。ジョイントコンサートの開催は2017年に続き2回目となる。

コンサートに先駆けて行われた式典では、オープニングとして玉川小学校4年3部が勇壮な太鼓演奏を披露。その後、両市の市長があいさつした。今井敦孝茅野市長は「長年の交流がこうしたコンサートの開催につながったことをうれしく思っている」「ジョーン・ベックロングモント市長は「米国と日本の学生の皆さんこそがこの交流の中心だ。若き大使として都市の未来に対する希望を象徴している」と話した。

コンサートは計780席の会場がほぼ満員となる盛況ぶり。終盤の全体演奏では第1回にも演奏された両市の「思い出の曲」である「エーロビートデイズニードロー」を「再演」。演奏後には万雷の拍手が鳴り響いた。ロングモント市の作法に倣い、欧米で広く定着しているスタンディングオベーションをして、一同で出演者に賛辞を送る一幕もあった。

東海大諏訪高校吹奏楽部で部長を務める2年の榎井梨音さん(17)は演奏後の取材に「きのう初めてロングモント

市の人たちと音合わせをしたが、ジェスチャーなども交えてうまく意思疎通できた」と振り返り、「今までの演奏で一番大きい歓声を受けた。スタンディングオベーションされたのも初めてだ」と笑顔を見せた。

ロングモント市ロシエイクさん(17)以外の感想はコンサートだった。音楽は国境を全く超えるのだと強く実感できた。

記念盾 陶芸作家の飯山さん(茅野市)手掛ける



「作品通し良好な関係」

茅野市と米国コロラド州ロングモント市との姉妹都市提携35周年を記念して20日に茅野市民館マルチホールで開かれた式典では、記念品の交換も行われた。このうち茅野市が贈った記念盾を地元の陶芸作家の飯山和俊さん(茅野市玉川)が手掛けた。

飯山さんによると、市から制作を依頼されたのは昨年10月ごろ。材質や形状などを試行錯誤して完成させたとい

と命名。盾は陶器と木材を使用し、成り、桜や着風代の産物とされた文の「一ナス」の意匠を施した。

飯山さんは、日本らしさと市を思いやりを作品を通して表現したい。作品を通して良好な関係を保つ」と話してい

い、タイトルを「悠久の愛」